

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201008		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム和らぎ・歓び		
所在地	山口県宇部市大字妻崎開作789ノに467		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果市町受理日	平成24年6月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風の馴染みやすい空間で、内部も畳や自然木を多用した心地よい住環境になっており、その中で入居の皆さまがそれぞれのペースで自分らしい生活を送られています。食事は毎食手作りで季節感を取り入れたメニューを取り入れ、健康にも配慮したものを提供しています。食事作りは入居の皆さまにもできることは参加していただき、皆で楽しく美味しく、食事に関わる時間を大切にしています。又家事なども本人のできることを尊重しながら、掃除、洗濯などを共に行っています。さりげない優しさでお互いが助け合うという理念の下で入居の皆さま、御家族、職員が協力し合い、入居の皆さまが安心して過ごしていただける、グループホーム作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価に全職員で取り組み、問題点に気づき話し合うことで、ケアの見直しに活かしておられ、利用者一人ひとりを大切にしていくケアの取り組みに繋がっております。食事は準備や片付けなど利用者の出来ることを職員と一緒にいき、職員は利用者一人ひとりの好みを細やかに把握して献立や盛り付けの工夫をされ、一緒に食卓を囲んで食事が楽しみなものになるように支援しておられます。利用者と家族の絆を大切にされており、誕生会等の行事への参加や家族との外出、利用者の姉妹との宿泊など、関係が途切れないように支援に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日接遇トレーニングやミーティング時に唱和している。地域の中でその人らしく暮らしていただける様に入居の皆さま、職員、地域の方々が共にさりげなく助け合うという理念を作り上げている。	地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るように利用者、職員、地域の人々とお互いに助け合うという理念をつくり、ミーティング時などに唱和し、共有し、職員一人ひとりが意識して日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の広報誌などをまわしていただいている。又地域へ向けた発行紙(老人保健施設)にグループホームの紹介などを掲載している。学生のボランティアなども積極的に受け入れている。	大学のボランティア(毎年20名程度)や中学生の社会体験の受け入れ、幼稚園児と交流、近隣スーパーでの買い物、散歩時のごみ拾いや挨拶を交わすなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学などは常にできるようにしており、その際に支援方法や認知症高齢者の理解を高めていただける様に質問などに応じている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を理解して改善点があれば運営者、管理者、職員で話し合い、より良いホーム作りに励んでいる。	評価の意義を理解し、職員一人ひとりが自己評価に取り組み全体ミーティングをしてまとめている。評価を通して日常のケアを振り返り、職員間で話し合っ具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告などで日頃どのような生活を送られているかお伝えし、又ひやりはつと事故報告なども行っている。意見交換を行いサービス向上に向けて取り組んでいる。	年6回開催し、状況報告、行事報告、リスクマネジメント、感染症予防報告などで意見交換をして、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 消防署やスーパー店長などの地域メンバーの参加を依頼している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加依頼や、医師の意見書などの情報提供を定期的に行うなどして、連絡を密にとっている。又、市から依頼された報告などは不明な点があれば連絡するなどして、御協力をいただいている。	市介護保険課とは介護保険申請、法的手続き、感染症予防等の情報交換など様々な機会を通じて連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について代表者及び全ての職員が理解し身体拘束をしないケアを心がけている。入居者の安全を配慮した上で日中の施錠は行わないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束委員会での研修を実施し、職員は正しく理解をして拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については事業所の立地条件も含めて運営推進会議でも話し合い、外出を察知した場合は一緒に出かけるなど工夫をして、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての園内研修などに参加し学んでいる。虐待に当たる事例がない様にお互いが注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる利用者はおられないが、勉強会などを通して権利擁護の制度を理解し、活用できるように取り組んでいる		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事に変更があった場合や契約解除の際は十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口を設け、フローチャートを作成している。	相談、苦情の受付体制、外部機関相談窓口、処理手続き等を明示し入居時に利用者、家族に説明している。月1回介護相談員が来訪し利用者、家族の相談を受けている。運営推進会議、来訪時、電話などで意見を聞くように努め、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで上がった意見や提案は事務長、代表者にあげるようにしている。	管理者は職員個人の相談にのったり、全体ミーティング時に出された提案や意見を起案書として事務長、代表者に提出している。出された意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、複数名による査定を行い、賞与等の給与にその結果を反映させている。また、平成21年10月より、介護職員処遇改善交付金を受給し、介護職員の賃金水準の改善を図っている。職員が段階的にキャリアアップを図れるよう、キャリアアップシステムの構築を検討している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、認知症に関する勉強会を実施し及び法人内外の研修参加について、全面的に支援しております。また、年1回、法人内学術大会を開催し、日頃の取り組みの成果を発表する事で更なるサービスの質の向上に繋げている。	法人内研修(月1回)、全体ミーティング時の勉強会(3ヶ月に1回)や訪問看護師による勉強会、接遇トレーニング(毎日15分)等を実施し、法人内の学術大会では日々の介護を発表するなど働きながらのトレーニングも進めている。外部研修は段階に応じて参加の機会を提供し、復命伝達をして情報を共有するなど職員を育てる取り組みが積極的に行われている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、他のグループホーム職員と情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にアセスメントをとり、利用者の嗜好、要望をお聞きし、不安を取り除き、スタッフの関わりに統一感、共通意識をもって信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にアセスメントをする際は御家族にもお話を聞き、御家族の想いに耳を傾けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各事業所とも連携し、本人にとってまず、どのような支援が必要かを見極めた上で入居の検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として学び、お互いが助け合って家事全般など行い、生活している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆が必要不可欠であることを入居時に説明し、できる限りグループホームへ足を運んでいただいたり、受診の付き添いなど協力していただいている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とも話をした上で、馴染みの面会者に会っていただいたり、長年馴染んだ場所にいけるようにしている。	利用者の姉妹の宿泊や友人や知人の来訪、自宅周辺へのドライブや馴染みの美容院に行ったり、手紙や電話のやりとりなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で食事の席の検討など行っている。利用者が孤立されないように職員も必要時入るなどして対応している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもその後の関わりを大切にしながら相談にのったり気軽に越しいただける様に配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が日課としている(刺繍、家人の面会など)様々な生活を把握し対応している。決めごとにはせず一人ひとりその時に応じた柔軟な支援に努めている。	入居時のアセスメントでセンター方式を活用して利用者や家族からの情報を把握し、日常のケアの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式など活用し事前に利用者や家族、以前のサービス事業所から情報収集を集めサービス経過時の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴などを把握し、ご家族からも情報提供を頂いている。日々の身体、精神状態の把握に努め、スタッフ間で情報交換を密に行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いて本人がよりよく暮らすための課題をチームで話し合い介護計画を作成している。	利用者、家族の希望を聞いて、本人がより良く暮らせるために全職員で気づきなどを話し合い、個別の具体的な介護計画を作成している。6ヶ月に1度見直しをしているが、変化が生じた場合はその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の生活状態、行動は記録に細かく記録し、スタッフは毎日生活パターンを把握しながら支援している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況や本人の身体状況によっては受診に付き添ったり、外出支援を行ったりしている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れている。又消防関係の訓練時等に相談助言をいただいている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に基づきかかりつけ医と事業所が連携を取りながら適切な医療が受けられるようにしている。	事業所の協力医の他、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診は原則として家族の協力を得ることにしている。事業所は通院介助や情報の伝達方法など利用者と家族、協力医やかかりつけ医等と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問の際、情報や気づきを報告、相談したり緊急時の際の連絡相談や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医療機関との情報交換を密に行い、家族とも相談し、本人がグループホームの生活に戻れるように支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向にそえる様、かかりつけ医や医療訪問看護と話し合う方針を共有している。	看取りに関する指針があり、入居時に利用者と家族に説明している。病状が変化するごとに職員は利用者、家族、医師、関係者と話し合い、検討して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。又訪問看護と緊急時の対応をテーマに勉強会を行い、スキルアップに励んでいる。		
35	(15)	○事故病死の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故があった場合は必ず事故報告書を作成し、会議などでも取り上げ事故防止に取り組んでいる。又、勉強会を行い応急手当ができる様取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、ヒヤリハットや事故報告書を作成し、全職員で話し合い、検討して事故防止に取り組んでいる。リスクマネジメント委員会においても検討する体制がとられている。応急手当について看護師の指導を受けているが、応急手当や初期対応の定期的訓練の実施には至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い避難場所の確認や避難方法を職員が把握している。又運営推進会議等に地域の方々と災害時に協力していただける様に働きかけている。	消防署の指導を受けて避難訓練、誘導確認(夜間想定を含む)などを年2回実施している。職員は風水害のハザードマップを把握し、食料、飲料水の備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも入居の皆様の尊厳を持った言葉掛けを心がけている。接遇トレーニングを毎日行いお客様(入居者のみならず)の満足度の向上に取り組んでいる。	接遇トレーニングを毎日15分実施し、日々のケアの中でも管理者が指導している。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居の皆様の意見や気持ちを大事にし、本人の意思を第一に優先しながらできること、やりたいことを見つけ、家事や趣味活動を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、声掛け、傾聴を行っている。入浴時間や就寝時間などを希望に添えるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧を楽しむ時間を設けたり、外出の際に個々の嗜好にそった身だしなみで外出している。又御本人、御家族の希望の下、理美容院を利用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝っていただいたり、食事を作る楽しさを共有して楽しく食事を行っている。下膳が難しいという方に入居の方が手を貸してあげたり、洗い物を率先して下さったりする場面がある。食べたいもの、外食、旬の食材など提供している。	盛り付けや後片付け等、利用者のできることを職員とともにいき、一緒に食卓を囲んで楽しく食べることを大切にしている。誕生会には家族を誘って外食をしたり、利用者の好みを把握して献立や盛りつけに工夫をするなど食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、栄養のバランスを考え、必要な量を把握できるよう食事量、水分のチェックを行っている。好みの飲物などを選んで頂けるよう準備し、提供している。食べやすい容器や食形態、声掛けのタイミングなども個々に合わせて支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、保管方法については、義歯洗浄剤を使用し、実施日や保管方法を取り決めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表のチェック、記事等でパターンを把握し本人がトイレで気持ちよく排泄できるように努めている。	排泄表をチェックして一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックし、多めに取っていただいたり、運動に誘うなどして便秘対策に取り組んでいる。ご家族、訪問看護や医療機関とも相談して必要な方は緩下剤で調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日お風呂を沸かしている。利用者の体調を把握し希望に添える入浴介助を行っている。	入浴は毎日13時30分から17時ごろまで希望にそって対応している。利用者の希望、体調に合わせてシャワー浴、清拭、足浴などゆつくりと楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安なく落ち着いて眠れる様に不眠時には付き添ったり、温かい飲み物をお出しするなどして支援している。室温や照明などにも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人ひとりが内服の管理に関わり、目的、用法、用量について理解できるように取り組んでいる。状況によってはご家族や医療機関に相談し服薬支援を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等を通して一人ひとりが得意な事を活かせる場面づくりを行っている。朝の集い等で今日の出来事や話題を提供し、メリハリのある一日を過ごしていただけるように心掛けている。	食事の準備や後片付け、洗濯物を干したり、たたんだり、新聞紙の取りまとめ、花壇の手入れ、ユニット間での弁当づくり、カルタ、すごろく、歌、買い物、外食など活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日会や花見など希望に沿った外出支援に努めている。又、散歩、買い物、ゴミ捨てなど支援している。	ラジオ体操の後の散歩は毎日の日課になっている。四季の花見(桜、つつじ、菖蒲など)、ひな人形祭り、買い物(スーパーでのくじ引き)、ホテル見物、家族の協力を得て外食や買い物など、利用者の希望を聞きながら外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や御家族との相談を通じて一人ひとりの状態に応じた金銭管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人とのつながりが継続できる様に電話、手紙のやり取りを行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の馴染みやすい空間の中、自然の光など取り入れ五感に働きかける環境づくりをしている。花を飾ったり、芳香剤等利用し快適に過ごして頂けるように支援している。	各ユニットごとの多目的ホール、談話室、宿泊が出来るゲスト室、車椅子でも利用できる広いスペースと左右どちらからも入室可能なトイレなど、機能的なつくりとなっている。フロア、玄関などの飾りつけや家具なども家庭的で、自然の光が取り入れられ落ち着いた雰囲気になっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は開放し、仲の良い方同士がゆっくり話をしたり、一人ひとりの快い場所が作られている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭にあった馴染みのある物を持ってきていただき利用者が心地よく過ごせる部屋づくりをしている。衣類などは利用者がわかりやすい様に名前を書くなど工夫し、職員と一緒に整理整頓など行っている。	居室にはトイレ、洗面台が設置されており、テレビ、タンス、ぬいぐるみ、簾、テーブル、衣装ケースなど使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、居心地よく、安全に過ごせるように工夫されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の理解力や慣れ親しんだ生活などを配慮しながら自室の環境を整えたり、混乱や失敗を招く要因がないかを点検し、トイレやエレベータなどの案内や表札の設置を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム和らぎ・歓び

作成日： 平成 23年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	事故発生時の対応など、職員の不安がある	事故発生時の対応について知識だけではなく実践力も高めていく。	定期的に行っている園内研修など知識を高め、同様に実際に事故が発生した時の対応等定期的に訓練を行う。消防署で行われる救急対応の講習の参加など検討する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。